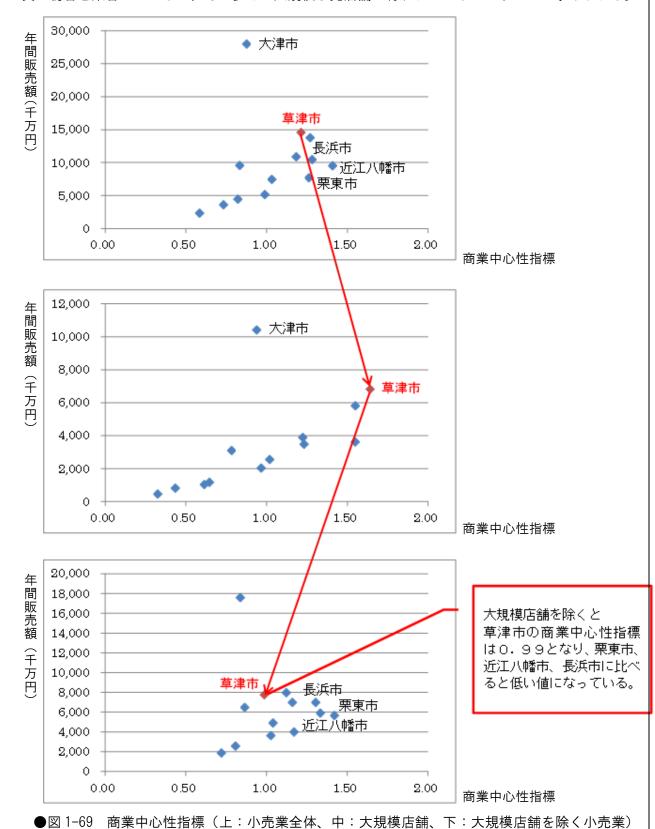
◎商業中心性指標で見ても高い草津市の大規模小売店舗の割合

商業中心性指標を周辺都市と比較すると、草津市は 1.21 と県内 5 位であり、比較的高い値になっている。大規模小売店舗でみると、草津市は 1.64 で県内 1 位となり、より高くなっているが、大規模小売店舗を除くと、草津市は 0.99 と県内 9 位と低くなる。これらの傾向から、草津市は市外からの買い物客を集客しているが、その多くが大規模小売店舗で行われているということが挙げられる。



(出典:平成19年商業統計、平成19年10月人口)

3)土地利用・市街地整備に関する状況

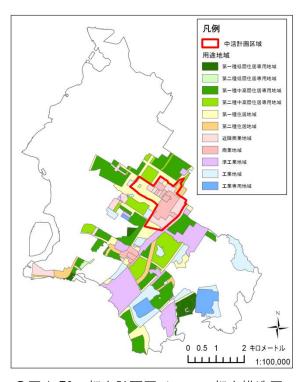
- ①都市構造と DID 地区(人口集中地区)の状況
- ◎鉄道駅を中心とした商業地域、住宅地の広がり

草津市は、JR 草津駅と JR 南草津駅の周辺が商業地域であり、それを囲むように住宅地が広がっている。また、高速道路の IC のある丘陵部には工業地域が広がっている。琵琶湖側は田園地域であり、市街化調整区域になっている。

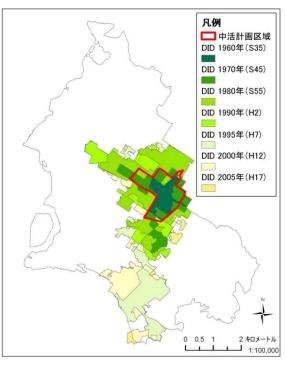
◎年々規模が拡大する DID 地区

DID 地区の人口と面積については年々増加しており、DID 地区の人口密度も昭和 45 年以降増加し続けている。平成 22 年の DID 地区の人口は 89,093 人(市人口の約 68%)、DID 地区の面積は 12.6ha(市面積の約 18.6%)、DID 地区の人口密度は 70.7 人/ha となっている。

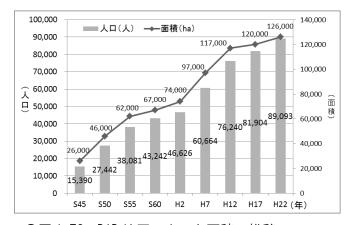
なお、DID 地区の面積は、平成2年以降、JR 南草津駅周辺など市南部を中心に拡大している。



●図 1-70 都市計画図ベースの都市構造図



●図 1-71 DID 地区変遷図



●図 1-72 DID 地区の人口と面積の推移

(出典:草津市統計書)

(年)	人口(人)	面積(ha)	人口密度 (人/ha)
S45	15,390	26,000	59.2
S50	27,442	46,000	59.7
S55	38,081	62,000	61.4
S60	43,242	67,000	64.5
H2	46,626	74,000	63.1
H7	60,664	97,000	63.5
H12	76,240	117,000	65.2
H17	81,904	120,000	68.0
H22	89,093	126,000	70.9

●表 1-18 DID 地区の人口、面積、人口密度

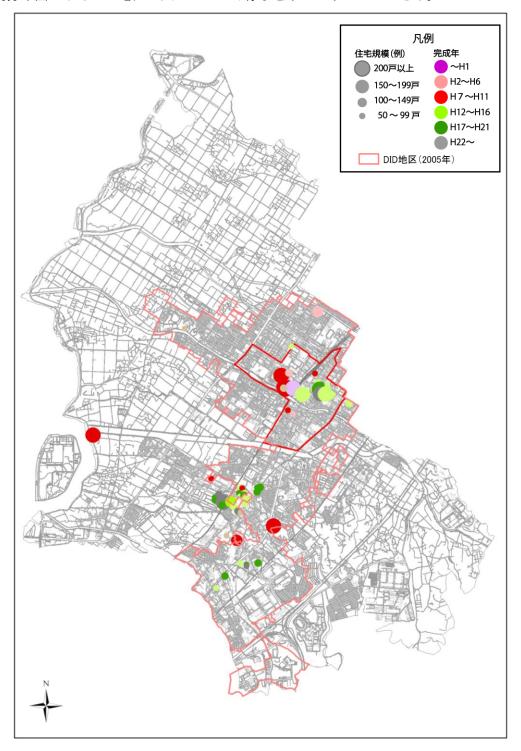
(出典:草津市統計書)

◎高層(大規模)マンションの広がりに伴い、拡大する DID 地区

高層(大規模)マンションの立地は、草津駅と南草津駅を中心に広がっている。

年代別に見ていくと、平成初期には草津駅に近接した地域に 100 戸以下規模の高層(大規模)マンションが立地したが、そこから徐々に、草津駅周辺に広がりを見せ、200 戸以上といった大規模な高層マンションの建設へと移行し、増加していることがわかる。

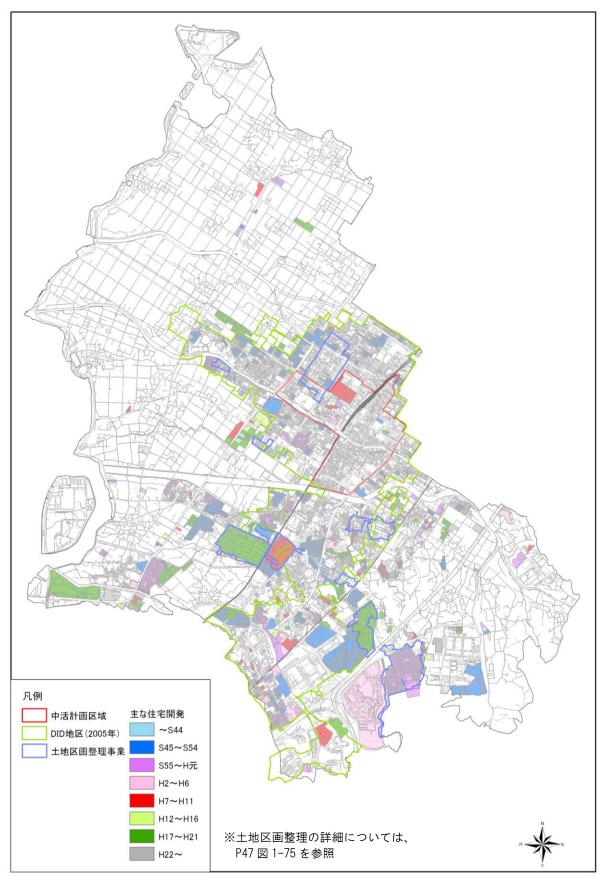
また、平成 12 年頃から南草津駅周辺にも高層(大規模)マンションの建設が始まり、草津駅周辺だけでなく、南草津駅を中心とした地域も DID 地区となった。このように高層(大規模)マンションの年代別分布図からも DID 地区が広がっていく様子をうかがうことができる。



●図 1-73 草津市内の高層(大規模)マンションの分布(10階以上50戸以上)

◎郊外の住宅開発に伴い、拡大する DID 地区

このように、郊外の住宅開発の年代別分布図からも、DID地区の広がりを検証することができる。



●図 1-74 草津市内の主な住宅開発の分布

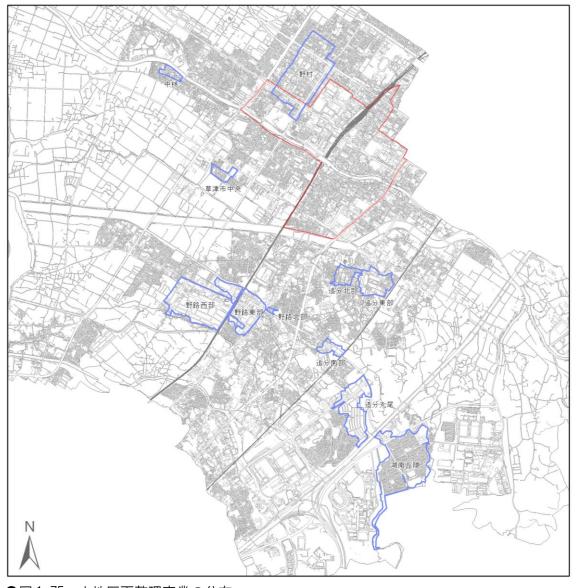
②市街地整備の状況

◎人口増加に伴い、土地区画整理事業が進み、市街地が郊外に拡大

草津市では、施行済の土地区画整理事業が10か所あり、施行中の土地区画整理事業が1か所となっており、市街地が郊外へと拡大している。

7570 APAT	・こがんしている	0		
	地区名	施行者	面積 (ha)	施行期間 (年度)
	野村	市	37.9	S48~H14
	中林	組合	1.5	S47
	追分北部	組合	5.2	S49~S52
	湖南丘陵	個人	38.1	S55~H6
施行済	追分南部	組合	3.5	H3~H8
	野路東部	組合	16.7	H4~H12
	追分東部	組合	10.4	H4~H11
	草津市中央	組合	3.4	H7~H9
	野路北部	組合	0.5	H8~H10
	野路西部	組合	30.5	H11~H21
施行中	追分丸尾	組合	19.2	H14~H30(予定)

●表 1-19 土地区画整理事業(出典:草津市)



●図 1-75 土地区画整理事業の分布

◎JR 草津駅周辺では超高層マンションを含む3つの市街地再開発事業が完了

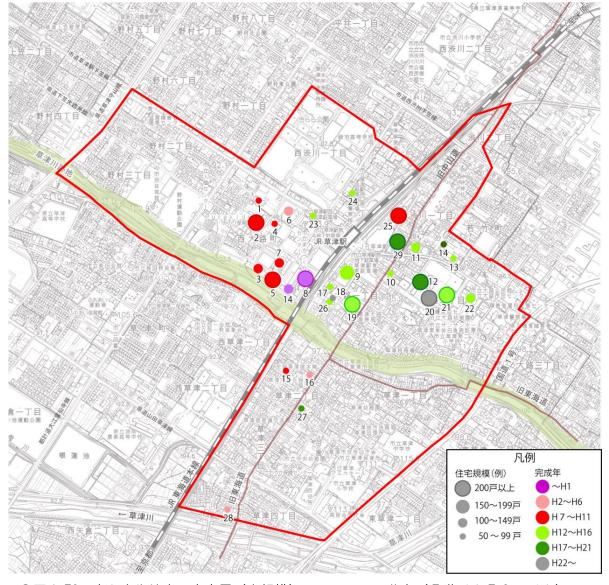
JR 草津駅周辺では、3つの市街地再開発事業が完了しており、都市における土地の合理的かつ健全な高度利用と都市機能の更新が図られている。高度利用化によって、建設された超高層マンションは中心市街地での大きな住宅供給となっている。また、テナント部分には新たな商業機能や医療施設が集積し、都市機能の向上に大きく貢献している。

名称	事業名	施行者	面積(ha)	施工期間(年度)
エルティ932	草津駅前A地区 第一種市街地再開発事業	組合	0. 9	\$60~63 (完了)
TOWER · 111	大路中央地区 第一種市街地再開発事業	組合	0. 7	H13~16(完了)
H . A H . D	渋川一丁目2番地区 第一種市街地再開発事業	組合	0. 7	H18~21(完了)

●表 1-20 市街地再開発事業(出典:草津市)

◎JR 草津駅周辺を中心に高層マンション建設が進んでいる

超高層マンションだけでなく、草津駅周辺を中心に、多くの中高層(大規模)マンションが立地しており、中心市街地の人口増加に寄与している。

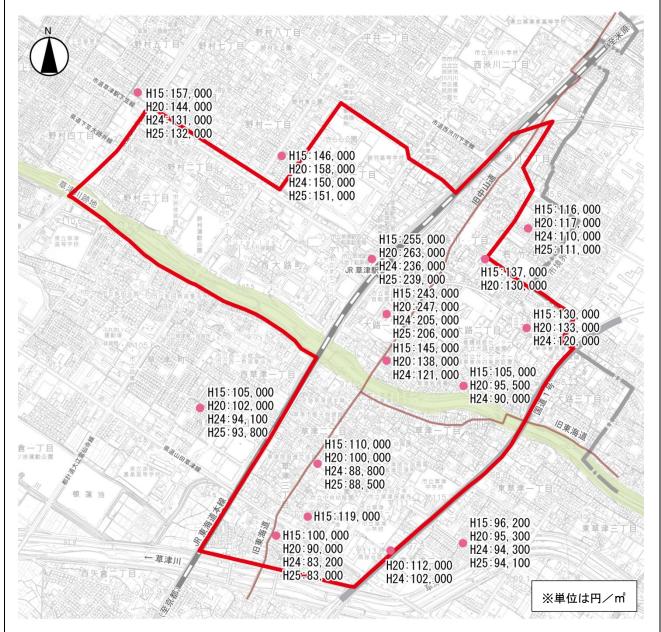


●図 1-76 中心市街地内の中高層(大規模)マンションの分布(5階以上50戸以上)

③地価の推移

◎中心市街地の地価は減少傾向

中心市街地内の地価は、ほぼ全ての調査地点で下がっている。特に駅周辺での下落幅が大きく、ここ 10年で15%前後落ち込んでいる。なお、平成25年には、駅周辺の一部で地価が上がっている箇所がある。



●図 1-77 中心市街地付近の地価公示(出典:国土交通省 地価公示)

- ④低未利用地の状況(草津市まちなか再生課の調査)
- ◎平面駐車場による低未利用地が点在

平成24年度に本市で以下のような低未利用地の調査を実施した。

調査基準日:平成24年9月現在

調査対象:JR草津駅を中心とした草津市中心市街地活性化基本計画区域内

調査方法:現地における目視調査調査項目:未利用地、低未利用地

この調査では、未利用地、低未利用地を次のように定義している。(国土交通省土地総合情報ライブラリー 低未利用地の活用・管理より抜粋)

【未利用地】

・適切な利用が図られるべき土地であるにもかかわらず、長期間利用されていない「未利用地」 例:空き地、耕作放棄地、管理を放棄された森林などが挙げられる。

【低未利用地】

・周辺地域の利用状況に比べて利用程度(利用頻度、整備水準、管理状況など)が低い「低未利用 地の総称」

例:暫定的(一時的)に利用されている資材置き場や青空(平面)駐車場などが挙げられる。

中心市街地内には、低未利用地(合計 371 箇所、約 78,074 ㎡)が広がっており、特に平面駐車場が広く点在している。

また、アニマート跡地、西友跡地、野村市営住宅跡地、野村運動公園駐車場については、広大な未利用地となっている。

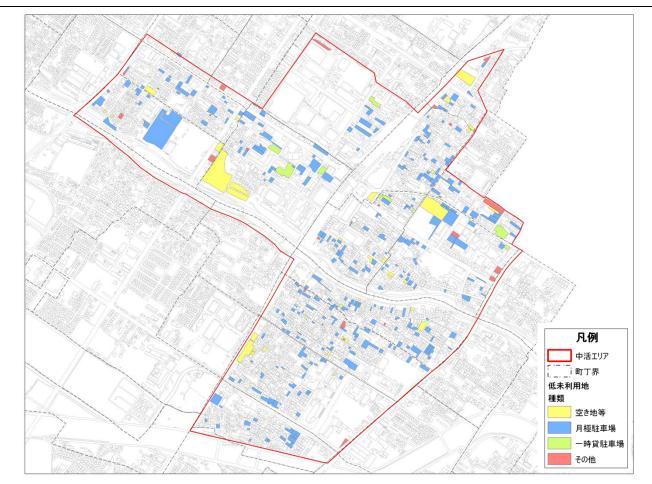
また、中心市街地内を、本陣周辺エリア、駅東(大路・渋川)エリア、駅西エリアの3つに分けると、以下のような結果となった。

ア. 本陣周辺エリア

- ・本陣周辺エリア全体には、平面の月極駐車場(計 122 箇所、約 35, 907 ㎡) が広く点在している。
- ・市役所周辺には、まとまった平面の月極駐車場が広がっている。
- ·JR線路沿いには、まとまった未利用地がある。
- イ. 駅東(大路・渋川) エリア
- ・駅東(大路・渋川)エリア全体には、平面の月極駐車場(計 111 箇所、約 39,923 ㎡)が広く点在している。
- ・アニマート跡地と西友跡地の広大な未利用地がある。
- ・駅東口前を中心としてその周辺には、一時貸駐車場が点在している。

ウ. 駅西エリア

- ・駅西エリア全体には、平面の月極駐車場(計63箇所、44,731㎡)が広く点在している。
- ・野村市営住宅跡地と野村運動公園駐車場の広大な低未利用地がある。
- ・駅西口前を中心としてその周辺には、一時貸駐車場が点在している。



●図 1-78 中心市街地内の低未利用地の分布(出典:草津市)

		月極馬	注車場	空き	地等	一時貸	駐車場	その	D他	低未利用地合計	
		数(箇所)	面積(m²)	数(箇所)	面積(m²)	数(箇所)	面積(m²)	数(箇所)	面積(m²)	数(箇所)	面積(m²)
	西渋川1丁目	8	4441.7	0	0.0	1	981.9	1	836.3	10	6259.9
	西大路	23	13060.8	3	16769.4	3	4937.6	1	123.2	30	34891.0
駅西	野村2丁目	20	6402.8	2	1288.8	0	0.0	2	232.6	24	7924.2
エリア	野村3丁目	11	20558.4	4	1191.4	0	0.0	2	1115.8	17	22865.6
	野村6丁目	1	267.6	1	126.1	0	0.0	1	516.0	3	909.7
	駅西合計	63	44731.3	10	19375.7	4	5919.5	7	2823.9	84	72850.4
	渋川	36	10193.5	6	4402.0	0	0.0	4	754.6	46	15350.1
駅東	大路1丁目	30	7577.6	5	1949.6	3	1010.3	2	210.2	40	10747.7
(大路·渋川)	大路2丁目	31	14767.0	4	7340.2	1	365.2	3	1696.0	39	24168.4
エリア	若竹	14	6384.5	1	516.9	1	2247.0	2	2062.3	18	11210.7
	駅東合計	111	38922.6	16	14208.7	5	3622.5	11	4723.1	143	61476.9
	草津1丁目	35	10361.2	6	1649.0	0	0.0	1	84.1	42	12094.3
★随用江	草津2丁目	42	11768.5	4	651.1	0	0.0	4	630.2	50	13049.8
本陣周辺	草津3丁目	29	7432.2	6	4381.5	0	0.0	1	443.7	36	12257.4
エリア	草津4丁目	16	6345.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	16	6345.0
	本陣合計	122	35906.9	16	6681.6	0	0.0	6	1158.0	144	43746.5

●表 1-21 中心市街地内の低未利用地(出典:草津市)





●図 1-79 中心市街地内の低未利用地(左:アニマート跡地、右:西友跡地)

- ⑤一時貸駐車場の状況(草津市まちなか再生課の調査)
- ◎大型店併設型と点在する中小規模の一時貸駐車場

平成24年度に本市で以下のような一時貸駐車場の調査を実施した。

調査基準日:平成24年9月現在

調査対象:JR草津駅を中心とした草津市中心市街地活性化基本計画区域内

調査方法:現地における目視調査

調査項目:一時駐車場(時間貸し駐車場)

中心市街地全体の一時貸駐車場については、基本的に草津駅の東口と西口を中心としてその周辺に合計約21箇所で合計約4,800台が点在している。駅東口周辺には計13箇所で計約1,200台、及び駅西口周辺には計8箇所で合計約3,600台(エイスクエア約3,000台含む)がある。

また、駅東口と駅西口に分けると、以下のような結果となった。

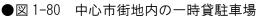
ア. 駅東口周辺

- ・駅東口周辺には、大型店に併設された大規模な一時貸駐車場(近鉄百貨店:約 600 台、エルティ 932:226 台など)と地下駐車場(151 台)が集積している。
- ・その他には、数台から数十台までの中小規模な一時貸駐車場が点在している。

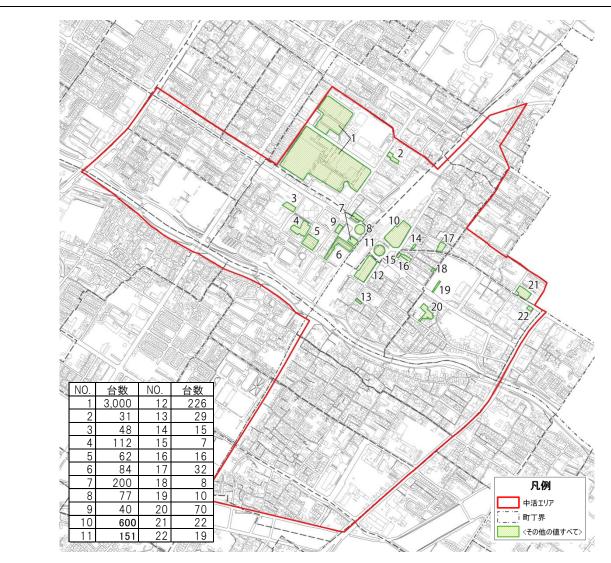
イ. 駅西口周辺

- ・駅西口周辺には、大型複合店に併設された大規模な一時貸駐車場(エイスクエア:約3,000台) と地下駐車場(77台)が集積している。
- ・駅西口周辺には、ホテルや商業施設などに併設された中規模な一時貸駐車場(ボストンプラザホテルとケントプラザ:約200台、エストピアホテル:約160台)が集まっている。
- ・その他には、数十台の中規模な一時貸駐車場が点在している。









●図 1-81 中心市街地内の一時貸駐車場の分布

	数(箇所)	台数(台)
駅西エリア	9	3, 654
駅東(大路、渋川)エリア	13	1, 205
本陣周辺エリア	0	0
エリア全体	22	4, 859

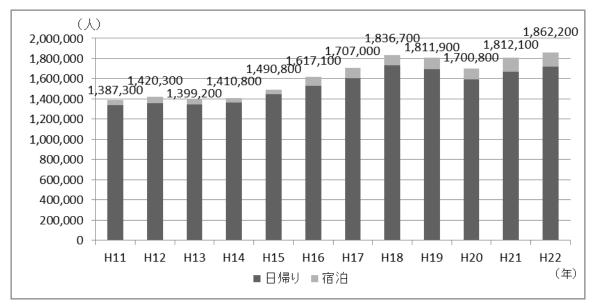
●表 1-22 中心市街地内の一時貸駐車場

4) 観光と交流等に関する状況

- ①草津市の観光入込客数の推移
- ◎琵琶湖沿岸に集中する草津市への観光客

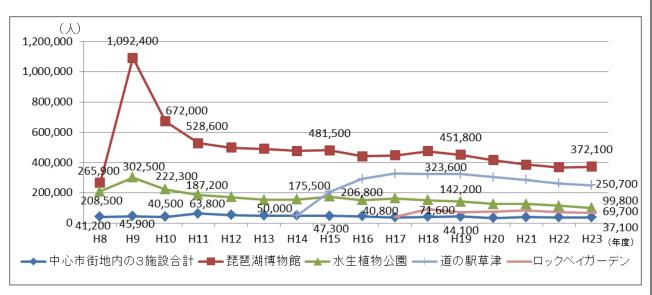
草津市への観光客は、この 10 年間で増加している。また、形態としては日帰りが多く、宿泊は1割にも満たないが、宿泊の割合はこの 10 年間で高くなっている。

観光施設別にみると、琵琶湖博物館や道の駅草津、水生植物公園みずの森など琵琶湖沿岸に多くの施設があり、中心市街地内の3施設(※)の来場者合計を見ても、最も来場者の多い琵琶湖博物館の1割程度となっている。



●図 1-82 草津市の観光客数の推移(出典:草津市)

※数字は観光客数の総数



※中心市街地内の3施設:草津宿本陣、草津宿街道交流館、観光物産館脇本陣

●図 1-83 草津市の観光施設の来場者数の推移(出典:草津市)

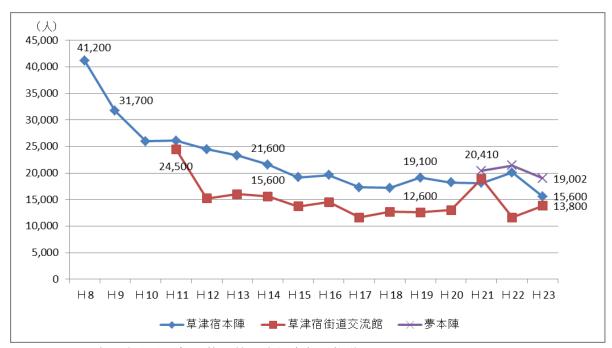
②中心市街地の観光施設別来場者数の推移

◎中心市街地の観光施設等への来場者は減少傾向

国史跡草津宿本陣を含む周辺の観光施設等(歴史·文化関係施設等)の来場者数は減少傾向にある。 近年開業した交流施設の夢本陣についても来場者は伸び悩んでいる。

(年度)	国史跡草津宿本陣 (人)	草津宿街道交流館 (人)	夢本陣(人)
H 8	41, 200	-	-
H 9	31, 700	-	-
H10	26, 000	-	_
H11	26, 100	24, 500	_
H12	24, 500	15, 200	_
H13	23, 300	16, 000	_
H14	21, 600	15, 600	_
H15	19, 200	13, 700	_
H16	19, 600	14, 500	_
H17	17, 300	11, 600	_
H18	17, 200	12, 700	_
H19	19, 100	12, 600	_
H20	18, 200	13, 000	_
H21	18, 100	18, 900	20, 410
H22	20, 100	11, 600	21, 445
H23	15, 600	13, 800	19, 002

●表 1-23 中心市街地の観光施設等の来場者数



●図 1-84 中心市街地の観光施設等の来場者数の推移

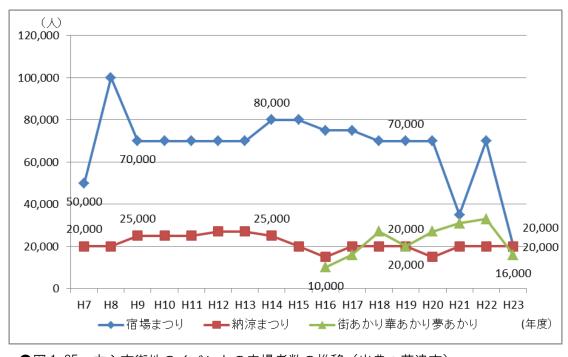
③中心市街地のイベント別来場者数の推移

◎中心市街地でのイベントへの来場者は横ばい傾向

中心市街地での主なイベントは、4月に行われる「宿場まつり」、8月に行われる「納涼まつり」、11月に行われる「街あかり華あかり夢あかり」の年間3回である。主なイベントは天候の影響にもよるが、来場者数は横ばい傾向である。

(年度)	宿場まつり(人)	納涼まつり(人)	街あかり華あかり夢あかり(人)
H7	50,000	20,000	_
Н8	100,000	20,000	_
H9	70,000	25,000	_
H10	70,000	25,000	_
H11	70,000	25,000	_
H12	70,000	27,000	_
H13	70,000	27,000	_
H14	80,000	25,000	_
H15	80,000	20,000	_
H16	75,000	15,000	10,000
H17	75,000	20,000	16,000
H18	70,000	20,000	27,000
H19	70,000	20,000	20,000
H20	70,000	15,000	27,000
H21	35,000	20,000	31,000
H22	70,000	20,000	33,000
H23	20,000	20,000	16,000

●表 1-24 中心市街地のイベントの来場者数



●図 1-85 中心市街地のイベントの来場者数の推移(出典:草津市)

④観光客へのアンケート調査

(出典:「着地型観光による交流人口拡大策に関する調査研究報告書」、(平成 22 年度)、草津未来研究所)

草津市の観光動態調査などのデータ収集のために、「草津宿街道魅力創出事業聞取りアンケート」を実施した。

調査期間:平成21年11月~平成22年3月

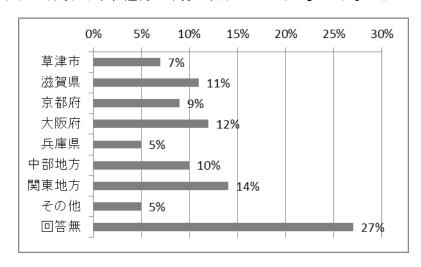
調査対象:本陣、脇本陣、夢本陣、街道交流館、街道にて来訪者

回答者数:713人

来訪者の居住地について

◎草津市、滋賀県からの来訪者が比較的少ない

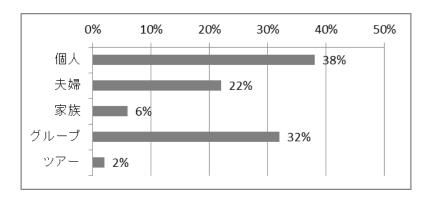
来訪者の居住地について聞いたところ、「関東地方」が最も多く、「草津市」が7%、滋賀県が11% と近隣からの来訪者が少なくなっている。これは、「近くであるから行かない」という理由も考えられるが、「近くであるにも関わらず、魅力が十分に伝わっていない」とも考えることができる。



来訪者の来訪形態について

◎歴史・文化に興味のある個人での来訪が多い

来訪者の来訪形態について聞いたところ、「個人」が38%と最も多く、「ツアー」が2%と最も少なくなっている。対象地域は歴史・文化に関する施設が多くなっているため、歴史・文化に興味のある特定の個人が多く来訪していると考えられる。



⑤中心市街地の施設別利用者数の推移

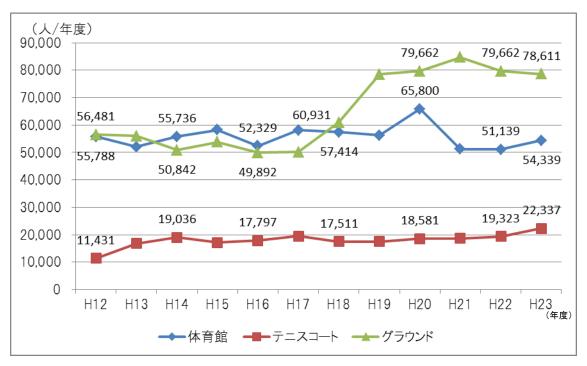
◎スポーツ施設の利用者は全体として増加傾向

中心市街地内のスポーツ施設である野村運動公園の平成 23 年度利用者数は、体育館で約 54,300 人、テニスコートで約 22,300 人、グラウンドで 78,600 人である。

テニスコートについては、平成 17 年から平成 23 年まで増加傾向であるが、体育館については、平成 17 年より平成 23 年まで微減傾向である。グラウンドについては、平成 18 年度よりナイター設備が導入され、夜間の利用が可能になったことにより、利用者数が急増したが、その後は微減傾向である。

(年度)	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
体育館	55,788	52,039	55,736	58,281	52,329	58,169	57,414	56,280	65,800	51,191	51,139	54,339
テニスコート	11,431	16,784	19,036	17,095	17,797	19,421	17,511	17,530	18,581	18,712	19,323	22,337
グラウンド	56,481	56,028	50,842	53,823	49,892	50,197	60,931	78,461	79,662	84,704	79,662	78,611

●表 1-25 中心市街地のスポーツ施設(野村運動公園)の利用者数



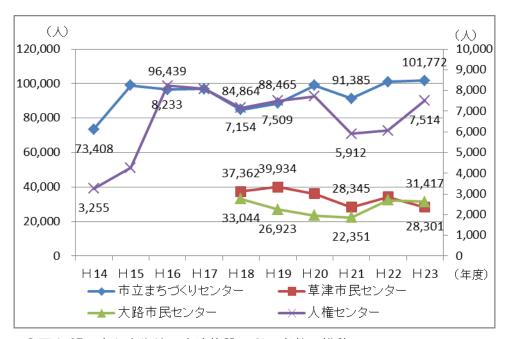
●図 1-86 中心市街地のスポーツ施設(野村運動公園)の利用者数の推移

◎各地区にある市民センターの利用者は減少傾向

市民センターなどの交流施設の平成 23 年度利用者は、市立まちづくりセンターで約 101,700 人、草津市民センターで約 28,300 人、大路市民センターで約 31,400 人、人権センターで約 7,500 人となっている。最も多く活用されている市立まちづくりセンターの利用者推移は微増であるが、市民センターは減少傾向である。

(年度)	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H 20	H21	H22	H23
草津市民 センター					37, 362	39, 934	36, 083	28, 345	34, 190	28, 301
大路市民 センター					33, 044	26, 923	23, 424	22, 351	32, 445	31, 417
市立 まちづくり センター	73, 408	99, 026	96, 439	96, 948	84, 864	88, 465	99, 013	91, 385	100, 967	101, 772
人権 センター	3, 255	4, 262	8, 233	8, 073	7, 154	7, 509	7, 726	5, 912	6, 053	7, 514

●表 1-26 中心市街地の交流施設の利用者数



●図 1-87 中心市街地の交流施設の利用者数の推移

◎各ホールの稼働率は増加傾向

アミカホールの稼働率は、ホールとリハーサル室では増加しているが、文化教室と研究室では減少している。

また、サンサンホールの稼働率は、ホールと中会議室では増加しているが、大会議室や小会議室で は減少、または横ばいである。

これらの傾向から、比較的広いスペースの貸し会場の稼働率が増加傾向にあることがわかる。

(年度)		ホール	リハーサル室	文化教室 I	文化教室Ⅱ	研修室
H20	利用日数	184	206	247	219	219
1120	利用率%	60.3%	67.5%	81.0%	71.8%	71.8%
H21	利用日数	161	194	267	214	215
1121	利用率%	52.8%	63.6%	87.5%	70.2%	70.5%
H22	利用日数	199	231	248	166	186
1122	利用率%	64.8%	75.2%	80.8%	54.1%	60.6%
H23	利用日数	179	208	196	139	168
1123	利用率%	70.2%	81.6%	76.9%	54.5%	65.9%

●表 1-27 中心市街地のアミカホールの利用率

(年度)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H22	6,947	8,101	4,481	5,219	4,541	4,148	7,801	-	ı	-	ı	-
H23	5,854	8,372	3,973	5,545	4,699	5,245	6,361	6,845	9,121	10,432	1,163	7,268

●表 1-28 中心市街地のアミカホールの利用者数

(年度)	ホール	大会議室	中会議室	小会議室1	小会議室2
H19	5.7%	40.3%	38.4%	35.2%	42.6%
H20	5.1%	46.0%	39.8%	35.2%	43.2%
H21	3.9%	52.6%	47.7%	41.4%	44.9%
H22	7.2%	38.7%	50.6%	32.2%	40.2%
H23	10.3%	37.8%	54.6%	33.4%	45.0%

●表 1-29 中心市街地のサンサンホールの利用率

5)交通に関する状況

①鉄道の乗車人員

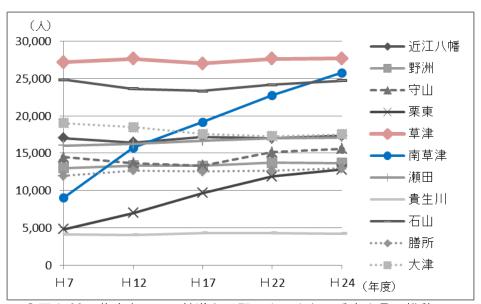
◎滋賀県内で最も多いJR草津駅の乗車人員

草津市内には、JR草津駅とJR南草津駅の2駅がある。中心市街地にあるJR草津駅の一日当たりの乗車人員は、約27,000人であり、滋賀県内で最も多くなっている。また、JR南草津駅も開業以降年々増加している。

なお、JR 西日本駅別乗車人員(一日平均)ランキング(データで見る JR 西日本 2012)によると、 JR草津駅は 27 位(27,435人)、JR南草津駅は 32 位(24,694人)に挙げられている。

(年度)	H7	H12	H17	H22	H24			
近江八幡	17,040	16,438	17,153	16,977	17,293			
野洲	13,002	13,333	13,315	13,697	13,673			
守山	14,468	13,686	13,347	15,153	15,607			
栗東	4,816	6,985	9,642	11,870	12,817			
草津	27,195	27,648	27,031	27,654	27,692			
南草津	9,014	15,709	19,146	22,757	25,763			
瀬田	16,013	16,216	16,646	16,970	17,106			
貴生川	4,127	4,066	4,290	4,308	4,239			
石山	24,851	23,623	23,320	24,156	24,700			
膳所	11,942	12,688	12,531	12,642	12,965			
大津	19,022	18,488	17,555	17,269	17,510			

●表 1-30 草津市周辺の鉄道主要駅の 1 日当たり乗車人員



●図 1-88 草津市周辺の鉄道主要駅の 1 日当たり乗車人員の推移

順位		駅名		人員	順位		駅名	人員	順位		駅名		人員	順位	駅名		人員 順位		駅名			人員
1	大		阪	406,576	11	岡	Щ	59,232	21	住		道	32,650	31	六	甲道	24,748	41		灘		22,279
2	京		都	185,983	12	明	石	51,675	22	宝		塚	32,487	32	南	草津	24,694	42	加	古	\parallel	21,949
3	天	Ξ	寺	134,728	13	元	町	48,438	23	弁	天	町	32,464	33	石	山	24,475	43	Ξ	国ケ	丘	21,685
4	京		橋	130,355	14	新	大 阪	48,407	24	山		科	31,672	34	桕	九条	23,491	44	吹		\blacksquare	21,405
5	Ш	1	宮	117,800	15	北	新 地	47,713	25	西	明	石	30,441	35	伊	丹	23,361	45	大		Œ	21,242
6	鶴		橋	94,613	16	姫	路	46,422	26	芦		屋	28,328	36	森	ノ宮	23,299	46	兵		庫	21,177
7	広		島	70,354	17	茨	木	44,091	27	草		津	27,435	37	福	島	23,248	47	新	長	\blacksquare	21,064
8	神		戸	67,562	18	尼	崎	40,679	28	JR	難	波	26,426	38	大阪	天満宮	23,131	48	舞		子	20,352
9	新	今	宮	61,878	19	住	吉	34,727	29	立		花	25,942	39	摂	▶本山	22,966	49	長	畄	京	20,144
10	硘		槻	61,771	20	垂	水	34,374	30	Ξ	·	寺	24,980	40	天	満	22,890	50	金	·	沢	20,010

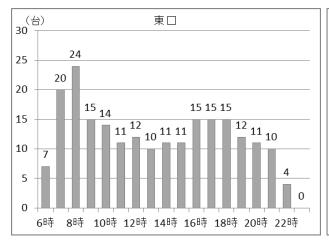
●表 1-31 JR 西日本駅別乗車人員(平成 23 年度 1 日平均)ランキング

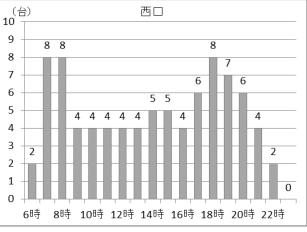
(出典:データで見る JR 西日本 2012)

②中心市街地へのアクセスバスの運行状況

◎JR草津駅が拠点となったバスの発着

JR 草津駅が中心市街地のバス発着の拠点となっており、1日を通して、毎時間当たり10本以上のバスが発着している。また、コミュニティバスである「まめバス」が、中心市街地内を細かく運行している。





●図 1-89 草津駅東口西口における時間別バス発車台数

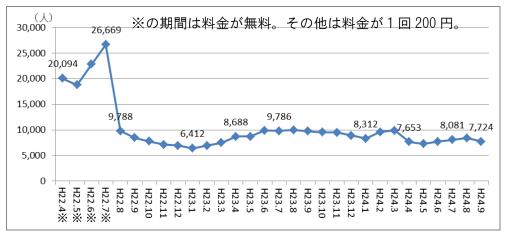


●図 1-90 市内全域のバス路線図

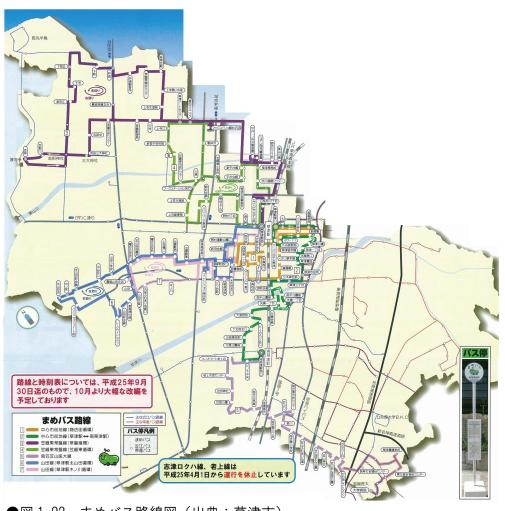
③バスの利用状況

◎コミュニティバスの利用者は減少傾向

コミュニティバスである「まめバス」は9路線あり、中心市街地内をはじめ、草津市内全体を運行していたが、現在、路線統合や休止により、4路線が運行されている。利用状況をみると、料金が無料であった運行開始4か月は20,000人を超える利用者があったものの、1回200円の料金が必要になって以降は10,000人以下を横ばいに推移している。今後、高齢化も進み、買い物や通院などでバス等の公共交通機関の役割が大きくなると考えられるため、料金も含めたコミュニティバスのあり方を検討する必要があると考えられる。



●図 1-91 まめバスの利用者数の推移(出典:草津市)



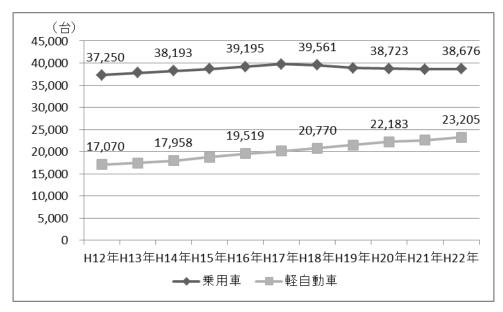
●図 1-92 まめバス路線図(出典:草津市)

④自動車保有の状況

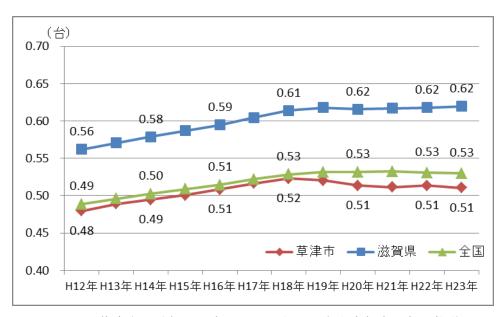
◎自動車保有台数は人口増加とともに増加

市民の自動車保有台数は人口増加とともに増えており、特に軽自動車の保有数の伸びが乗用車の伸びに比べて大きくなっている。

1人あたりの自動車保有台数は滋賀県全体と比較すると、草津市の方が少なくなっている。なお、全国と比べても若干少なくなっている。



●図 1-93 草津市の自動車保有台数の推移(出典:各年滋賀県統計書)



●図 1-94 草津市と滋賀県と全国の1人あたり自動車保有台数の推移 (出典:草津市と滋賀県は、各年滋賀県統計書。全国は、一般財団法人自動車検査登録情報協会調査、人口動態調査)